

令和 6 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(山北地区)

開催日時	令和 6 年 11 月 8 日 (金) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分
場所	生涯学習センター
町民参加者	24 人
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画総務課長、地域防災課長、福祉課長、商工観光課長、定住対策課長、生涯学習課長、事務局 2 人

意見交換の概要

<テーマ 地域ぐるみの防犯体制づくりについて>

※公募によるテーマ

[所管課：地域防災課]

最近、住居侵入や窃盗事件が頻発している。中には殺人事件になってしまったものもある。山北町は高齢化が進んでおり、また住居が点在していることから個人で身を守ることが難しくなっている。このことから、地域で組織をあげて対策をする必要があると考えている。本来は地域でやるべきことだとは思いますが、町が先導して進めていくことも必要ではないか。地域全体でできることを検討していければと思っている。

山北駅の駅前交番が廃止されたことにより、松田警察署管内での人数が減ってしまっていると思われる。地域で対策をするにも限界があると思うので、駅前交番を復活させるなどの取り組みが必要なのではないか。また、防犯対策について、地域の住民を対象に町で勉強会を開催したらどうか。

堂山自治会長：自治会で防災・防犯に係るリーフレットを購入し、全戸に配付した。リーフレットの内容は絵がたくさん入っていてわかりやすいものとなっており、価格も安いものとなっている。強盗に入られた場合に大声を出すと強盗が逃げることもあると聞いている。このことからスマホで 110 番に連絡するよりも、ボタンを押すと隣近所まで聞こえるブザーなどを設置するのも身を守る手段として有効ではないか。

地域防災課長：最初に松田警察署に確認した地域の現在の犯罪の傾向について説明させていただきたい。最初に挙げられるのは「特殊詐欺」があり、特殊詐欺の中でも足柄上地域では「オレオレ詐欺」が多くなっている。令和 6 年に発生している被害状況については、松田警察署管内で 15 件、被害額は 2,000 万円となっている。それ以外にも SNS 型投資詐欺、ロマンス詐欺といった犯罪が発生している。なお、闇バイトに関わる犯罪やその予兆については、松田警察署管内では確認されていないとのことであった。

町では、防犯に関する情報を松田警察署から常時情報提供を受け、町民の皆さんに情報提供が必要なものと判断した場合には、あんしんメールや今年度から開始した町公式 LINE など周知をさせていただいている。また、町の防犯対策としては、公共施設に防犯カメラの

設置を進めている。昨年から防犯カメラの設置費用が県の補助金の対象になったことにより、設置数を増やしている。現在は、町内で56台の防犯カメラを設置している。

町長： 地方でも昼夜を問わず凶悪な事件が発生しており、地域ぐるみの防犯体制づくりは非常に重要だと考えていることから、警察と連携しながら取り組んでいきたい。また、最近の防犯カメラは性能が向上しており、犯罪の抑止に効果的であると考えている。堂山自治会長さんから話のあった、ブザーを高齢者に持ってもらうことも良いアイデアだと思う。その他にはドライブレコーダーの性能も向上していることから、公用車だけでなく町内の様々な機関に協力いただいて、町内を運転する際に周囲の状況をカメラで記録するようにできれば犯罪の抑止につながると思う。

副町長： 会場の皆さんの中で、防犯用のブザーを設置したとか、カメラを設置したといった事例があればお聞かせいただきたい。また、勉強会についても検討していきたいと思う。

参加者： 自宅の中に人がとおるとセンサーが反応するカメラを数台設置している。また、オレオレ詐欺の対策として、親の自宅にかかってくる電話を自分の携帯電話に転送するように設定している。

堂山自治会長： ソーラーパネルが電源となっている人感センサーで反応する照明がある。安価でかなり明るくなるものがあり、防犯に効果的であると考えている。

参加者： センサーで人がとおると音が鳴るものを導入している。

副町長： ご紹介いただいた防犯のための機器は、日々進化しており新しいものを町からもやまぶき学級などで周知できるよう検討していきたい。

〈テーマ その他〉

[所管課：企画総務課、保険健康課、商工観光課、定住対策課]

- | |
|---|
| <p>①セラピーロードができた際は、大久保農道から河村城址までしっかりと整備されていたが、現在は整備がされていないように思う。整備のための予算措置はされているのか。</p> <p>②移住促進のための宿泊施設ホテルの家について、町の魅力を知っていただくために宿泊してもらう施設と認識しているが、単に宿泊費が安いという理由で泊まっている人がいるように感じる。</p> <p>③スマートインターチェンジの完成が予定されているが、それに伴う観光振興はどのように考えているのか。町にスマートインターができて観光などでお金を落としてもらわなければ意味がないのではないか。</p> <p>④JR 御殿場線の線路沿いの草刈りについて、向原地区や堂山地区など草刈りしているが萩原、田屋敷といった桜の木がある箇所の草刈がされていないので、実施してもらいたい。</p> |
|---|

副町長： ①についてはご意見をいただいたので確認したい。

定住対策課： ②について、ホテルの家が本来の目的で利用されていないということだが、申込を受ける際には宿泊の目的を確認している。宿泊希望者には、山北町に興味がある方や田舎暮らしを体験したいという方が希望されている。

町長： ③のスマートインターチェンジについては、令和 9 年度の完成に向けて工事が進んでいる。また、大規模な工事のため工事完了後も撤去に 2 年はかかることから、町で観光のための施設の建設などを開始できるのはそれ以降になってしまう。現在、県などとスマートインターチェンジをどのように活用していくか調整を進めている。直近では、道の駅の改修がはじまるほか、オアシス公園の駐車場の整備やふれあいビレッジに施設を作れないかということで協議を進めている。スマートインターチェンジ完成後に観光客に消費してもらうことは重要であると考えているので、今後も様々な施策を考えていきたい。

スマートインターチェンジを利用する車両台数は 1 日 1300 台を予想しているが、すでに完成している秦野や伊勢原のインターチェンジについては、予想の 3 倍から 5 倍の利用がある。このことから、山北のスマートインターチェンジについても約 3000 台の利用があると予想している。これだけの車両が町に来るということで、いかに食事などで消費してもらうかを検討していきたい。道の駅を新たに建設することも考えている。

商工観光課長： ④JR 御殿場線の線路沿いの桜の木のある部分の草刈については、草がひどく JR に草を刈って欲しい旨を要望したが実施してもらえなかった。そこで、町職員自ら草刈りをさせてもらうよう要望したところ、線路に影響のない部分については許可が出たので 10 月末に中橋周辺の草刈を実施した。今後も継続して実施していきたい。また、地区によって草刈りが行われている所とそうでない所があるとのことだが、JR で優先順位を決めて実施しており、民地が隣接している箇所については、優先的に実施しているとのことである。

[所管課：都市整備課]

丹沢湖から山梨県に抜ける道路の整備に関して、現在の状況を伺いたい。また、相模原市方面への道路の整備は実現が難しく実施しないとのことであったが、山梨県に抜ける道路の整備については、町民からの強い要望がある。このことについて、町の考えを伺いたい。また、スマートインターチェンジ開通後の清水橋付近の渋滞対策について、清水橋付近の拡幅や国道 246 号線の 4 車線化を要望していくとの話があったが、何か進展はあったのか。

町長： 災害が発生した際に三保方面から抜ける道路がないことは課題であると考えている。相模原市へ抜ける道路ができないかということは何度も県に要望している。山梨県の道志村に抜ける道路については、県議会で否決されたことから県としては整備しないという回答があった。

清水橋の渋滞対策については、清水橋付近の拡幅には約 40 億円かかると国土交通省から過去に話があり、町もかなりの財政負担が必要になるので難しいと考えている。また、国道 246 号線の 4 車線化の要望は正式にはしていない。新東名高速道路の完成後、国道 246 号線の混雑がどのくらい減るのか工事業者に確認したところ交通量が 7%減るということであった。たった 7%と思ったが、交通量が 7%減ると渋滞はだいぶ緩和されるとのことであった。新東名高速道路が完成することにより渋滞の状況がどのようになるのか検証しながら対策を検討したい。

[所管課：地域防災課]

自治会長の負担が大きいためにやりたがらない人が多い。自治会長の負担軽減のために自治会長の仕事のマニュアル化や町村会でクラウド化している共同システムに自治会長が利用できるシステムを導入することなどにより、自治会長への負担を感じさせないような具体的な取り組みをお願いしたい。

町長： 国からもシステム化の要請はあるが、町のシステムを自治会長が利用できるようにするにはシステム内には個人情報などが多く含まれていることなどの理由からセキュリティをどうするかという問題があるので、導入には時間がかかると考えている。

[所管課：地域防災課]

自治会長をやっているが、自治会を抜ける理由は死亡や施設入所によるもので、それ以外の方は皆さん加入している。しかし、岸、向原地区の新興住宅地では若い世帯が自治会に加入してもらえないという話を聞く。また、近所の若い世帯に話を聞いたところ役員が回ってくるのが嫌、面倒くさいということを聞いた。町が自治会に加入するメリットなどを発信していくべきではないか。

地域防災課長： メリットを前面に出し、自治会加入を勧奨することは必要であると思う。自治会に加入することは強制できないが、出来る限り加入してもらおうような方法を検討していきたい。

[所管課：財務課、生涯学習課]

小学生にバレーボールを教えているが、他団体との競合により施設が使えなかったり、学校の体育館が3月の卒業式シーズンは使えなかったりすることがある。清水・三保の旧小中学校の体育館を町の団体にも利用できるようにしてもらいたい。

施設を有効活用し、運動する機会が増えれば町民の健康増進にもつながると思う。

生涯学習課長： 清水・三保地区の体育館の活用については、その他の施設の活用頻度などを踏まえ検討していきたい。

町長： 町の施設については、町民の皆さんが有効活用できるよう検討していきたい。建設を進めている体育施設については、予約がなくても利用ができるよう検討を進めている。

[所管課：商工観光課]

さくらの湯から山北駅前の商店街の建物が見えるがかなり傷んでいる。以前、建物の所有者の関係もあり改修は難しいという話はあったが、山北駅の駅舎の改修の件もあることや駅周辺に休日食事をする場所がないという意見もあるので、商店街の建物が朽ち果てる前に町が主体となって改修等を進めていただきたい。

町長： JR 東海から令和9年に駅舎を建替えたいという話があり、令和7年度に JR 東海と協議し、どういう建物にするかという方向性を出すことになっている。山北駅は1日の乗降客数が数百

人と少なく、JR 東海からは乗降客数にあった駅舎を建設するという話があったが、町が費用を負担すれば町が希望する駅舎の建設を許可するといわれている。また、どのような建物にするかは検討会を立ち上げ検討を進めているところである。

商店街については多くの店舗でシャッターが閉まっており、健康福祉センターから商店街をみると劣化している建物もいくつか見られる。なんとかしたいとは考えているが、商店街の建物の所有者は個人のため、なかなか進めることができない状況である。建物の所有者の話を聞きながら、少しずつでも進めていきたいと考えている。

[所管課：都市整備課]

丸山のヒルズタウンに引っ越しきたが、丸山公園について住民への周知や説明がなく木を伐採するなどの開発が進められてしまっている。開発のための工事も大規模なものとなっており、不安を感じることがある。また、周辺は子どもたちの遊び場となっており危険である。

町内には自然がたくさんあり木もたくさんあるが、子どもたちが虫をとったり、自然と触れたりできる場所は限られているように思う。駐車場などを作るのではなく、子どもたちが自然と触れ合える池や生物が集まる場所を作るのはどうか。

副町長： 丸山公園の工事について、地域住民に事前の説明がなかったということについては、担当課にしっかりと伝えていく。自然と共生していくことは大事なことであるので、いただいた意見を生かしていきたいと思っている。

[所管課：都市整備課]

鉄道公園にあった水車がなくなってしまい、水路の水も枯れてしまっている。山北町は水源の町なので、こういったものを大事にしてもらいたい。

町長： 水車については D5 2 の延伸化に伴い、遊具を撤去し新たな遊具を設置した関係もあり撤去させていただいた経緯がある。工事の際には、皆さんに丁寧に説明をし、理解をいただいたうえで進めていきたい。

[所管課：全課]

工事の際だけでなく、町で事業を計画する際に自治会や地域から意見を聞きとったり、説明したりしていないのか。実際に施設を使う人たちの意見を聞くことが重要であると考えている。

副町長： 町で行う大きな事業については、その内容を町民に周知している。ただし、今回あった丸山公園の件については、説明がなかったとのことなので確認させていただきたい。町で事業を行う際には住民に丁寧な説明をしていきたい。

[所管課：企画総務課、福祉課]

町の高齢化率が 40%を超えており、運転免許がない一人暮らしの高齢者の移動手段がない。買い物については、移動スーパーが開始されたことにより便利になったが、病院に行く手段がないことが課題であると考えている。社会福祉協議会でも事業を行っているが、予約がしづらいつ感じている。費用を安くかつ気軽に利用できる移動手段を検討してもらいたい。

福祉課長： 社会福祉協議会で実施している「おでかけ号」は、障がいがある方や介護認定を受けている方に限定されており、かつ登録制で予約が必要なことから使いづらいつ感じる方もいると思う。町では地域公共交通計画を策定し、高齢者も含めた町全体の交通の利便性の向上を進めていくとしている。また、山間部ではタクシー券の助成などを行っているが、それ以外の山北、岸、向原地区などでは、交通支援のための助成制度がないというのが現状である。

[所管課：保険健康課、福祉課]

病院に行きたくても、特に朝などはタクシーが見つからない。介護が必要な方は介護タクシーを利用するが、足柄上病院を受診する際には 1 回の利用に約 7,000 円の費用がかかることがある。ボランティアで支援を行っているがボランティアだと様々な制約があるので、町で移動支援などを検討して欲しい。

副町長： 町としてもいただいた課題を認識して、検討していきたい。

[所管課：地域防災課、都市整備課]

休日になると東名高速道路の工事の影響などで国道 246 号線の渋滞などがひどく住民は困っていると思う。山北駅前商店街の道路は一方通行になっているが、脇道から入り逆走する車が多くあった。観光客にもわかりやすい道案内を設置するなどの対策をしてもらいたい。旧 246 号の渋滞もひどくなっているのて、解消していただきたい。

副町長： 危険な状況であるとのことなので、対応していきたい。